

「サロン・土・カフェ W」開催報告

Meeting Report of “Salon "土" Cafe W”

高原 利 幸 (たかはら としゆき)
金沢大学 環境デザイン学系

熊 野 直 子 (くまの なおこ)
茨城大学

1. はじめに

「第 50 回地盤工学研究発表会」初日に北海道科学大学 G 棟 2F オープンスペースにて、男女共同参画およびダイバーシティに関する委員会は「サロン・土・カフェ W」を開催した。これは女性会員の横のつながりを深める事、また性別を問わずダイバーシティに関心のある様々な世代間の交流を図る事を目的とした催しで、2011 年から始まり、今年で 5 回目となった。

2. 開催状況

今回のサロン・土・カフェ W の参加人数は 37 名と過去最多となった昨年 (38 名) とほぼ同数で、満席のため残念ながら参加を見合わせた方がいらしたほどであった。参加者の内訳は男性 12 名で昨年の 8 名から大幅に増え、女性は 25 名で、地元の男女共同参画センターや札幌事務所のある企業から多くの参加をいただいた。

ワールドカフェ方式といって、まず 6~8 名が 1 つのテーブルに集い、決められたテーマに関して 20 分ほど議論した後、10 分かけて席替え、ドリンクの補充、挨拶などをして、また新たなテーマに関して話をするという形式で、3 テーマについてディスカッションをしていただいた。

テーマは、「1. 身近なダイバーシティ」、「2. ワーク・ライフ・バランスについて」、「3. ダイバーシティ実現に向けて女性が男性に求めること」とした。各テーブルにはダイバーシティ委員が、席替えをしない書記として配置され、最後に総括が行われた。

「身近なダイバーシティ」では、男性社員の育休取得を推進する会社が出てきている一方で、未だに男女や外国籍の社員に対する固定観念が強いと感じることが多いことの声が上がっていた。育休期間は勤続年数に入らないという問題もあるようであるが、東畑会長からは「定年をその分延長する」という提案もなされたようで、様々なキャリアパスの形成が認められつつあると感じた。

「ワーク・ライフ・バランス」では、「個々人で事情が異なるので、あまり周りを気にせずに自分たちの価値観を大切にすれば良いのではないか」という意見が複数のフロンランナーの女性から挙がっていたことが興味深かった。同時に、「遅くまで仕事をするのが優秀な人材」

と考える人も未だに多いようで、時間が解決することかもしれないが、組織上層部の方々にいかに新しい観念を浸透させるかということが現在の課題のようであった。

最後に、少しエキセントリックに「ダイバーシティ実現に向けて女性が男性に求めること」をテーマにしてみた。ここでは、様々な価値観の存在と、それに対応する評価制度の問題が挙げられ、このような話し合いには男性の参加がもっと必要という意見が多かったようである。

直前の特別セッションでは、「違いを拒否する時代」から、「違いを認識し始めた」のが現在であるというお話があったが、会場からの意見を眺めると、多様性に対する認識の成熟度は高く、そろそろ男女、年齢、国籍、身体的問題で線引きすることなく、融合していく時代へ転換するときではないかと感じさせられた。

3. おわりに

参加者も年々増加傾向にあり、そろそろ会場を大きくする必要があるかもしれない。終了後の皆さんからは、充実した雰囲気がうかがえ、カフェの目的を達成できたのではないかと感じている。参加をためらっておられる方には、ぜひ次回から参加していただきたい。

なお、今回のサロン・土・カフェ W の開催に際しては、北海道科学大学の川端先生をはじめ、大会実行委員会の皆様に多大なご尽力を頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、当日、美味しいお菓子を差し入れ下さった皆様、ありがとうございました。

参加して下さった皆様はもちろん、来年から参加していただける皆様にも、来年岡山大会でお会いできることを楽しみにしています。



写真—1 集合写真

(原稿受理 2015. 9. 24)